

# 2021 年度 教員相互の授業参観 報告書

## 目次

|                         |             |       |       |
|-------------------------|-------------|-------|-------|
| 国際英語学科                  | 国際英語専攻      | ..... | p. 1  |
| 人文学科                    | 哲学専攻        | ..... | p. 3  |
|                         | 日本文学専攻      | ..... | p. 4  |
|                         | 歴史文化専攻      | ..... | p. 5  |
| 国際社会学科                  | 国際関係専攻      | ..... | p. 6  |
|                         | 経済学専攻       | ..... | p. 7  |
|                         | 社会学専攻       | ..... | p. 9  |
| 心理・コミュニケーション学科          | 心理学専攻       | ..... | p. 11 |
|                         | コミュニケーション専攻 | ..... | p. 14 |
| 数理科学科                   | 数学専攻        | ..... | p. 17 |
|                         | 情報理学専攻      | ..... | p. 18 |
| キリスト教学科目運営委員会           |             | ..... | p. 19 |
| 第一外国語運営委員会              |             | ..... | p. 20 |
| 第二外国語運営委員会              |             | ..... | p. 23 |
| 日本語科目運営委員会              |             | ..... | p. 25 |
| 情報処理教育運営委員会             |             | ..... | p. 27 |
| 教職課程運営委員会               |             | ..... | p. 29 |
| 学芸員課程運営委員会              |             | ..... | p. 30 |
| キャリア・イングリッシュ・アイランド運営委員会 |             | ..... | p. 33 |

## 2021年度 教員相互の授業参観報告書

提出日 2021年 12月 13日  
国際英語学科・国際英語専攻

科目・専攻・委員会名 \_\_\_\_\_

主任・委員長等責任者氏名 本合 陽

|         |                                       |           |  |
|---------|---------------------------------------|-----------|--|
| 授 業 科 目 | 国際英語と女性の生き方                           | 授 業 担 当 者 | 小林 美恵子                                 |
| 授 業 形 態 | ハイフレックス（対面・グループ活動を中心とするが、遠隔での参加学生2名。） |           |  |
| 授業参観実施日 | 12月 8日（水）                             | 2時限       | 参 観 者 数<br>_____5名<br>(内、非常勤講師_____1名) |

（①授業科目の選定理由、実施後の②参観者の意見、③主任・委員長等の意見、④担当者の意見、⑤その他、自由にご記入ください。①～④は必ずご記入ください。）

① 国際英語専攻の多くの学生を対象とする授業でありアクティブ・ラーニングを実践している講義科目であることから、意欲的な取り組みを他の教員も学ぶために本科目を専攻として選んだ。

② 参観者からは学生の活発な活動を高く評価する声が多かった。ポスターセッションを中心とするアクティビティを行う内容であったため、ハイフレックスで参加している参観教員にはポスターやポスターに対するコメントの細部を見ることができない点が残念であるという声もあったが、クラスの組み立てが大変参考になるという意見があった。

筆者は zoom で参観したため、ポスターの細部や学生同士が書いたコメント内容を見ることが難しかった点が残念であるが、それを差し引いても得るところの多い授業であった。以下に、特に印象的だった点を三つ挙げる。

まず、この授業全体の目標である、リーダーシップを育むためによく工夫された授業構成そのものが興味深かった。自分を知るという観点から授業を組み立て、その手立てとして履修者たちにインタビュー、その結果の発表、それに対する他の学生からのコメントを取りそれを分析、という手の込んだ構成だった。とくにインタビューでは事前に相手についての詳しい情報を与えず、学生たちが聞き出させるという点が斬新だった。外部のインタビューイーに協力を依頼するとき、失礼があってはいけないとか、せつかくの機会を十分に活かさきれなくてはもったいないといった教師側の配慮から、つい、お膳立てや事前指導をしがちであるが、この授業のように学生を信頼することから生まれてくるものも大切であるということ再認識した。

また、教師が、履修者である学生側に考えさせることに終始徹していたという点も印象深かった。リーダーシップは、自分で気づく力、自分で考える力、自分で解決する力なくしては、備わらない。分析的思考力を習得させるには、まず考える練習が必要であるが、昨今の学生の多くに欠けている経験である。そうした現状をよく分析した結果選択されたと思われるこうした体験型の授業は、学生の潜在能力を引き出すのに、大いに役に立つことを目の当たりにした。

さらに、こうした「徹底して学生主体」のグループアクティビティを通して、学生たちは課題を自分たちで解決する必要に迫られるので、学生のグループワーク力も向上すると思われる。

上記のように、今後自らの授業でも大いに参考にしたい要素がいくつもあり、参観させていただいてよかったと実感した。卒論で多忙な時期に公開して下さった小林美恵子先生に感謝申し上げます。

③ 主任として授業参観に対面で参加した。「国際英語と女性の生き方」という題目の科目であることを十分に考慮した題材選び、そして学生がこの題目にそれぞれコミットするよう計画された内容など、高く評価できるものであった。具体的には“sensing”と“intuition”をキーワードに学生の特性

により二手に分かれた学生をそれぞれ 6 グループ、合計 12 グループに分け、6 名の外部識者に対し、それぞれのグループから一つずつのグループがインタビューを行う。そのインタビューに基づき、その指揮者に関する紹介内容を学生が考え、ポスター発表を行う。本日はまず参観教員のために趣旨説明があり、その後学生はポスターを貼り出す。そのポスターに対し、二手に分かれた学生が色分けされたそれぞれ別の色のポストイットに、それぞれのポスターへのコメントを書いていく。書き終わった段階で自分のグループのポスターへのコメントを持ち帰り、内容を分析させ、二手のグループによる特徴があるか、二つのグループの同じ識者への報告内容についての相違の分析を行い、最後にそれを発表するという内容で、よく考えられたクラス運営であると思えた。

- ④ 当プログラムは、チームリーダーシップに焦点を充て、すべての人が何らかの形でリーダーであるという前提に基づき、自分のリーダーシップスタイルに気づき、チームワークの中で自分の最適な役割を理解し発揮することを目的としている。MBTI (Myers Briggs Type Indicator) で自分の志向を理解し、質問力を発揮する演習として、外部の女性プロフェッショナルにインタビューをし、入手した情報をポスターにまとめるというデザインにした。今回は、自分とは真逆のタイプの人が情報をどのように受け取るか「気づく」ために、色を変えたポストイットでポスターの内容に対するコメントを書かせた。同じ方にインタビューをしても、捉えどころがグループによって異なり、コメントも自分たちでは気づかない点の指摘に大きな気づきがあったようだ。さらにインタビューをする際の質問の組み立て方、インタビューした内容のまとめの過程、インタビューしなかった人の情報について個人で振り返りをさせる。

オンラインの授業に慣れた中、対面でのダイナミックスを味わせたかったためアナログにポスターセッションを実施してみたが、オンラインで入っている学生や参観者をうまく巻き込むことができなかった点は改善が必要だと考える。ポスターを生徒たちが観覧する前に写真に撮り、タイムリーに Google Classroom にアップすることを主任からもご提案をいただき、次回はそれを実施していきたい。

2021 年度 教員相互の授業参観報告書

提出日 2022 年 2 月 18 日

科目・専攻・委員会名 人文学科・哲学専攻

主任・委員長等責任者氏名 榊原哲也

|  |                              |           |   |
|--|------------------------------|-----------|---|
| 授 業 科 目  | 哲学 2 年次演習                    | 授 業 担 当 者 | 馬場 朗  |
| 授 業 形 態  | 学生による発表とコメント、教員のコメントから成る演習形式 |           |   |
| 授 業 参 観 実 施 日  | 11 月 18 日 ( 木 )              | 1 時 限     | 参 観 者 数 <u>2</u> 名<br>(内、非常勤講師 <u>    </u> 名) |
| <p>(①授業科目の選定理由、実施後の②参観者の意見、③主任・委員長等の意見、④担当者の意見、⑤その他、自由にご記入ください。①～④は必ずご記入ください。)</p> <p>① 哲学専攻の 2 年生配当の必修授業であり、英語で実施されている先進的な授業であるため。</p> <p>② 哲学者およびその哲学について英語で書かれた文章をもとに、英語で発表し、それに対して別の学生が英語でコメントしたり質問したりする演習形式の授業であり、教員も英語でコメントを加えていた。哲学の内容について英語でディスカッションするのは、学生にとっても大変なことだが、学生たちは積極的に取り組んでおり、良い訓練になっていると感じられた。</p> <p>③ 意欲的な取り組みであり、来年度以降も継続して取り組んでほしい。</p> <p>④ 今年度から始めた試みで、事前に原稿を提出させ添削を行なった上で、発表当日に備える形をとった。哲学では、外国語文献の構文的な正確な読解、そして自分の使う哲学語彙の慎重な使用が他分野よりも強く求められる。しかし、哲学用語を外国語でどう表現するかをともかく実感する機会が殆どなかったと思う。普段使う日本語の哲学語彙を外国語から改めて多面的に振り返る機会になればと思う。</p> |                              |           |   |

2021 年度 教員相互の授業参観報告書

提出日 2022 年 12 月 22 日

科目・専攻・委員会名

日本文学専攻

主任・委員長等責任者氏名

今井久代

|  |                                     |           |   |
|--|-------------------------------------|-----------|---|
| 授 業 科 目  | 日本古典文学基礎演習（くずし字）                    | 授 業 担 当 者 | 光延真哉                                    |
| 授 業 形 態  | ハイフレックス授業。対面の方の授業では、グループワークで発表する形態。 |           |   |
| 授 業 参 観 実 施 日  | 12 月 09 日（ 木 ） 1 時 限                | 参 観 者 数   | <u>2</u> 名<br>(内、非常勤講師 <u>      </u> 名) |
| <p>①授業科目の選定理由、実施後の②参観者の意見、③主任・委員長等の意見、④担当者の意見、⑤その他、自由にご記入ください。①～④は必ずご記入ください。</p> <p>①18 課程で新設した授業で、アクティブラーニングを積極的に取り入れた授業であるため。</p> <p>②学生自身が選定した版本を、あらかじめ WebClass にアップし、選定した担当グループは全部読んでくる、担当以外のグループは、予習してきても構わないが、基本的にその場で抽選（web でやる）して、グループの担当箇所を決め、時間内に担当箇所をグループ内で読み解き、その後発表＝答え合わせ(事前にすべて読んできたグループと照応)という形の授業でした。学生が PDF 公開されている版本から対象を探してくるため、web 上の古典籍を探す技術が身につくうえ、学生自身が興味を持って取り組み、とても良いやり方でした。翻刻紹介されていない作品で、読み解く緊張やスリル（読めない…）がありました。</p> <p>③机間巡視が適切に行われており、正解を教える？とも思いましたが、言葉遊びのおもしろさとか、文学上の豆知識など翻刻外の内容をアドバイスする場になっており、なるほどと思いました。ただ機械的に翻刻するのではなく、江戸の絵本に触れられるのが良いと思いました。最後の答え合わせの説明も面白く、流行言葉とか、江戸の読者が軍記由来の知識を持っていることがわかるなど、興味深かったです。一方でもう少し時間があれば、挿絵の面白さとか、字と絵のコラボの話が学生とできたかもしれないのが、90 分の限界と思いました。また、豆本などは、実際に手に取ったときの驚きがきっと重要で（ちりめん本を実際に見たときも、こんなに小さいのかと驚きました）、本学所蔵品ではないので仕方ないですが、本学所蔵の版本の場合は、実際に見ることができたら良いと思いました。</p> <p>④学生の作業のための時間を確保しつつ、答え合わせのための時間も用意しなければならないという点で、時間管理の難しさがあります。出欠チェックや資料作成の補助で TA をお願いすることで、だいぶ負担が軽減されています。人数が多い授業なので、学生それぞれがチーム作業にどの程度コミットできているかを個別に測るのが難しく、そのあたりが課題だと感じています。</p> |                                     |           |   |

2021 年度 教員相互の授業参観報告書

提出日 2021 年 12 月 19 日  
 人文学科・歴史文化専攻  
 科目・専攻・委員会名 \_\_\_\_\_  
 主任・委員長等責任者氏名 坂下史

|  |                                      |           |   |
|--|--------------------------------------|-----------|---|
| 授 業 科 目  | 歴史文化演習 II                            | 授 業 担 当 者 | 大江洋代                                    |
| 授 業 形 態  | 対面による演習形式の授業。学生による課題報告、質疑、教員によるコメント。 |           |   |
| 授業参観実施日  | 12 月 14 日 ( 火 ) 4 時限                 | 参 観 者 数   | <u>2</u> 名<br>(内、非常勤講師 <u>      </u> 名) |
| <p>(①授業科目の選定理由、実施後の②参観者の意見、③主任・委員長等の意見、④担当者の意見、⑤その他、自由にご記入ください。①～④は必ずご記入ください。)</p> <p>① 歴史文化専攻の3年生を対象とした基幹科目。複数の大学での教育経験を持つ教員の授業実践について知ることが出来る。</p> <p>② 歴史文化専攻らしい史料を基にしたゼミで素晴らしい。史料を基に歴史的事実を考える、史料の探し方や検索の仕方について体験させる、史料を基に学生同士が討論する、そして史料の読みを皆で深める、そうしたことを実践しているゼミであった。学生も主体的に取り組んでいた。</p> <p>③ 歴史研究の中核は史料の調査と分析である。本授業は学生にこれを体験させるもので、歴史書の背後に「歴史研究の現場」があることを、身をもって知る点で意義深い。「国立国会図書館デジタルコレクション」中の一次史料を検討するが、これは学生に史料データベースの存在を知らしめ、その利用法の体得させる効果が期待できる。全員が関連史料を事前に調査分析するので「お客さん」のようにいるだけとはならない。原史料を使うため、決めてある道に沿って「正解」へと参加者を導くことは出来ない。まとめるのは容易ではないが、授業担当者と学生のダイナミックな交渉を通じてアクティブに方向づけがなされていた。</p> <p>④ 参加者全員が当日の報告テーマを踏まえ、「国立国会図書館デジコレ」から史料を探し、その史料の性質、読みどころを事前に調べ、予習ペーパーを作成してくる「予習制度」は諸刃の剣である。学生に「見つけてきた史料は、なんでも、いつでも使えるのだ」というミスリードの経験を重ねさせる恐れもある。このため担当者は、学生が見つけてきた史料に対して、どのような文脈で読むべき史料なのか、ゼミ内でも出来る限り言及している。しかし、予習ペーパーは授業開始 1 時間前までにクラスルームに提出されるので、教員も史料をじっくり吟味している時間が足りない。したがって、現在のように、当日のテーマに関する史料を「なんでもよいから見つけてくる」でなく、そのテーマによる報告を聞いた後一すなわち次の週に、報告者の関心や報告の問題点を踏まえ、関連資料を探してくるという方法への改善などを模索したい。</p> |                                      |           |   |

## 2021年度 教員相互の授業参観報告書

提出日

2021年 12月 18日

国際社会学科・国際関係専攻

科目・専攻・委員会名

主任・委員長等責任者氏名 黒沢文貴

|   |   |           |                                 |
|---|---|-----------|---------------------------------|
| 授 業 科 目   | アジア国際関係論Ⅱ                                     | 授 業 担 当 者 | 家永 真幸                           |
| 授業形態  | 対面での講義だが、パワポやPCを使用する双方向型式。授業参観はハイフレックスでおこなわれた |           |                                 |
| 授業参観実施日   | 12月10日(金) 2時限                                 | 参 観 者 数   | _____1_____名<br>(内、非常勤講師_____名) |
| <p>① 授業科目の選定理由<br/>                 当該科目は専攻の専門科目で、従来から受講生の高い評価を得ている所である。そのためその授業手法は他教員にとっても大いに参考になりうると判断しうるので選定した。</p> <p>② 参観者の意見、③主任・委員長等の意見<br/>                 専攻主任が参観したのでまとめて書く。なおハイフレックスでの参加希望者がもう一名いたが、当日急に都合がつかなくなった由で参加しなかった。<br/>                 授業はパワーポイントをもとにして進行しており、内容が極めて分かりやすく受講者に提示されていた。授業の始めに、前回提示されていた課題に答える時間を設けている。PCでのその課題提出が必須となっているが、課題の内容としては、教員が授業中に出した問いの答えを答えさせる欄、選択肢から授業内容に合致するものを選択させる問題、疑問・質問などのための自由記述欄で構成されている。とくに自由記述の疑問・質問にまず教員が答えることによって、自ずと前回授業の内容を思い起こさせ、今回の授業につなげる工夫がなされていて、大いに参考になる授業の進め方である。さらに授業の最後にはまた課題が出されるとともに、次回の予告的な簡単なお話があり、前回・今回・次回と講義の連続性を意識した進行により、受講生の講義内容の確認と授業への関心を啓発し持続させる工夫がなされている点も見習うべき点だと感心した。</p> <p>④担当者の意見<br/>                 外国政治を主に扱う授業のため、どうしても事実関係を知ってもらうところから始めなくてはならず、授業中に学生をランダムに指名して有意義な発言を引き出すことは難しい。そこで、毎回の授業後にクイズおよび自由コメントを課し、翌週の前半はそれに教員がリプライする形で、学生の参加意欲と主体性を引き出そうと画策している。もっと良いやりようはあると思われるので、FD等を通じて他の先生方の取り組みから学び、改善していきたい。今回は該当しなかったが、授業中に外交文書を実際に読んでもらうこともある。これも、教員が「どう読めばよいか」を一方向的に解説するだけで終わらせないためには、さらなる工夫が必要と考えている。</p> <p>⑤その他</p> |   |           |                                 |

2021年度 教員相互の授業参観報告書

提出日

2021年 12月 11日

国際社会学科・経済学専攻

科目・専攻・委員会名

主任・委員長等責任者氏名 竹内 健蔵

|         |                                     |       |                                   |
|---------|-------------------------------------|-------|-----------------------------------|
| 授業科目    | 経営学入門                               | 授業担当者 | 松嶋 一成                             |
| 授業形態    | オンライン (ZOOM) によるパワーポイントを使ったリアルタイム授業 |       |                                   |
| 授業参観実施日 | 12月 7日 (火) 4時限                      | 参観者数  | リアルタイム 4名、録画視聴 2名<br>(内、非常勤講師 0名) |

(①授業科目の選定理由、実施後の②参観者の意見、③主任・委員長等の意見、④担当者の意見、⑤その他、自由にご記入ください。①～④は必ずご記入ください。)

①経営学を専門とする教員を迎え、経済学とは異なったどのようなアプローチがなされているかを知りたいという点、ならびに、1年生を対象とする科目で、どのように学問に興味を持つように授業が組み立てられているかという点に関心があったため。

②\*現場の事例を出しながら学生に考えさせる授業で、学生に考える時間を十分に与えているところがよかったです。私は先を急ぐあまり、学生に問いかけてもあまりそうした時間を取らないようになっていたので参考になりました。

\*学生の経験を語らせることからそれを材料に授業を展開し、親しみやすい授業内容になっていると思いました。そのため学生が興味を持って聴けるようになっていると思います。

\*先生の問いかけに対して、学生のリアクションがよい場合とそうでない場合があり、何がそれを分けているのか考えたいと思いました。

\*オンラインで学生はビデオオフにしているので、学生の受講態度や積極性を見ることができないのは残念でした。

\*パワーポイント資料では復習の部分が充実しており、学生が当日の進行について行けるように配慮していることがうかがえました。

\*やや抽象的な概念も、かみ砕いてわかりやすく解説されていることが印象的でした。特に、学生が正確に理解できているのかを丁寧に確認されている点、具体的で身近な例に基づいて学生自身に考えさせることなども大変参考になりました。

\*オンラインでの授業だったが、松嶋先生は要所要所での確な「問い」を投げかけ、受講生に考えさせていたところがとてもよかった。先生は受講生を信頼して答えが出てくるまでいつとき待って下さっており、受講生も手をあげて口頭で答えたり、チャットに書き込んだりと、積極的に反応していた。スライドはポイントを押さえた図式的なものが中心で、それを自由自在に例をあげながら解説されるというライブ感あふれたものだった。自分の授業にもいかせるよう努めたい。

\*パワーポイント (レジュメ) が、文字の大きさやカラーが適切で、学生に見やすく、理解しやすいものでした。内容的にも入念に練られたレジュメだと思いました。

\*ラーメン屋など身近な例を挙げられ、難しい理論を学生が理解しやすいように工夫されていると感じました。それに関連して、実際の企業や製品にも言及して講義をなさっていたので、学生も興味を持ち、かつ理解しやすいと思いました。

\*学生にも多く発言させて授業を進めるスタイルでしたので、ワンサイドで講義を進めている私にはたい



へん参考になりました。充実した講義でしたので感心しました。

\*とてもよく考えられた授業だと思いました。特に、印象的であったのは次の諸点です

(1) 語り口

非常に柔らかな、ゆっくりした語り口で、しかし受講生の注意を引き付ける間の取り方、強弱など参考になりました。

(2) 理論と具体例の組合せ

理屈を述べた後、誰でも知る企業の例をあげたり、お店の例で考えたりと、理論と具体例の組合せが良いバランスを取っていると思いました。

(3) 現実への適用への言及

上記と似ていますが、現実には生起する出来事に理論が適用できるものであることを意識させることに留意されていると感じます。

(4) 双方向性の確保

受講生に質問を発し、発言させる努力を払っておられると思います。

(5) 考えさせるプロセスの確保

質問や投げかけを通じて受講生が授業中も考えなくてはいけない状況を作っていると思います。

(6) 受講生との関係の構築

実名で読んだり、指名したりと受講生との良好な関係を構築されていると思います。

③経営学は経済学専攻の中にあるということから、経営学の位置づけがどのようになされているかに関心がありましたが、経済学と経営学の両方で使われる学術用語が適切に配置、説明され、学生は両者を同時に学ぶことの重要性を認識できる授業となっていたと思います。

④\*講義では、分業の概念→調整の概念→さらにそれらを踏まえて実際の組織構造の設計、というように、なるべくストーリー性を意識していましたが、パワーポイントのスライドの操作も含め、途中で行ったり来たりがあったのは良くなかったと反省しております。

\*また、改めて記録した動画も観てみましたが、私の悪い癖で所々で早口になるので、それも要改善点であると思っております。

\*最後に、通常の形式とは異なり、Zoomによる講義で、かつFDの教員相互の参観をレコーディングしながら行うという特殊な状況でしたが、受講生はいつもと同様に能動的に講義に参加してくれて良かったと感謝しています。

⑤オンライン授業のため、学生はビデオオフにしているので、学生の受講態度や積極性を見ることができないのは残念でした。オンライン授業そのものを考えるという意味では、こうした形式の授業を参観することに意義があると思いますが、学生の授業に対する姿勢を知るためには対面の授業の参観が必要であると思いました。

## 2021年度 教員相互の授業参観報告書

提出日 2022年 2月 18日

科目・専攻・委員会名 社会学専攻

主任・委員長等責任者氏名 中村真人

|         |                 |       |                    |
|---------|-----------------|-------|--------------------|
| 授業科目    | 3年次演習(社会学)      | 授業担当者 | 金野美奈子              |
| 授業形態    | 対面授業、ゼミナール形式の演習 |       |                    |
| 授業参観実施日 | 11月 29日(月) 2時限  | 参観者数  | 4名<br>(内、非常勤講師 0名) |

## ① 授業科目の選定理由

社会学専攻にとって中心となる科目であるとともに、卒業論文の構想に関するものであり、専攻の教育にとって重要なものである。

## ② 参観者の意見

## 意見(1)

報告担当学生の発表に続き、小グループにわけてのディスカッションを行い、参加している学生が自分の意見を示しやすくする工夫がなされていた。

報告やディスカッションの時間も適切に管理されており、時間管理に対する学生の意識づけがなされていた。

報告のフォーマットが定められており、フォーマットに従えば自然と、先行研究を踏まえながら研究を展開させてゆけるように工夫がなされていた。

## 意見(2)

3名の報告者が卒論構想を発表するという回であった。参考になったのは、ゼミ生全員を巻き込んでいくための次のような工夫である。

・まず、3名がそれぞれ10分程度の報告を行った。それ以外のゼミ生は数名ずつ3つの班に分かれていた。

・報告終了後、報告者3名は1人ずつそれぞれ3つの班に入って、班の中で12分前後、質疑応答をしていた。これが3ターン。

・残り時間は、各々の報告者が5分ずつぐらい、全員の前で、得られた意見や気づきについて語っていた。

ゼミ運営においては、学生が報告を行った後の質疑応答において、聞いていた側の学生からなかなか質問や意見が出ないものである。だが上記のようなやり方で意見交換がやりやすくなることを学べた。この方法は人数が多いゼミほど有効であるように思われたので、次年度以降のゼミ運営において試してみようと考えている。

## 意見(3)

FD授業参観は、卒論のテーマ報告回の演習であった。3名の報告者が、レジュメを配布し、前に並び座り、10分の持ち時間で順に報告し、質疑応答が行われた。聞き手の学生たちは3つのグループに分かれ、グループでも話し合いができるような設定になっている。そして教員は真ん中の教卓ではなく端に座るなど、机の配置や距離など

で、学生の主体的な授業参加が促されている。ゼミの出席確認もゼミ生が行うなど、ゼミの所属意識を高めるための工夫に富んでおり、授業参観で学んだいくつかの点を来年度の演習等で取り入れたい。

### ③ 主任・委員長等の意見

学生発表と小グループディスカッションによる演習を参観の対象とした。

参観した各教員にとって、授業実施方法を研鑽する有意義な機会となった。授業担当者にとっても、授業実施方法を振り返ることができた。参加者の教員も学生との討論に加わり、教育効果をあげた。

### ④ 担当者の意見

学生発表と小グループディスカッションを軸にした演習を参観いただいた。

自身の授業実施方法を振り返るよい機会を得た。ご参加の先生に学生ディスカッションに加わっていただけたことで、学生にとっても大変よい刺激となった。感謝申し上げたい。

2021 年度 教員相互の授業参観報告書

提出日 2021 年 11 月 29 日

心理学専攻

科目・専攻・委員会名

主任・委員長等責任者氏名 田中 章浩

|         |                          |           |                      |
|---------|--------------------------|-----------|----------------------|
| 授 業 科 目 | 社会心理学概論<br>(社会・集団・家族心理学) | 授 業 担 当 者 | 正木 郁太郎 先生            |
| 授 業 形 態 | 遠隔授業 (同時双方向型)            |           |                      |
| 授業参観実施日 | 11 月 17 日 (水) 1 時限       | 参 観 者 数   | 9 名<br>(内、非常勤講師 1 名) |

(①授業科目の選定理由、実施後の②参観者の意見、③主任・委員長等の意見、④担当者の意見、⑤その他、自由にご記入ください。①～④は必ずご記入ください。)

① 授業科目の選定理由

専攻の 1 年生全員が履修する必修科目において、同時双方向型の遠隔授業を実施している本講義を通して、他の同様の授業において参考となる気付きを得るため。

② 参観者の意見

1. 感想

- ・学生への質問やコメントへの応答や紹介などに十分時間が割かれており、前回授業の振り返りが丁寧になされていました。
- ・パパパ slido、投票機能、授業途中の 3 分間の休憩等、学生が飽きない、疲れないような工夫が盛り込まれていて素晴らしかったです。
- ・新しい概念の学びにあたってはその都度定義を提示し具体例を挙げられていたので学生はよく理解できたのではないかと思います。
- ・それぞれの研究が関連づけて提示されていたので学生は知識を統合しやすく学ぶことができていると思います。
- ・授業難易度が適切であり、心理学概論の繰り返しにならないようにきちんと学習事項の住み分けをして頂いており、学生を一つ上のステップに丁寧に導いて頂いていることがよくわかりました。
- ・パパパコメントと slido のいずれも、無記名であるにもかかわらず荒れたり文句が書かれたりすることなく、学生と先生との間の信頼関係が構築されていることが伝わって参りました。私の授業では、他の学生が見ることの出来るプラットフォームでは匿名コメント投稿はなかなか難しく苦勞しています。
- ・ご提案ですが、もしかしたらこの授業は、橋元先生ご担当のコミュニケーション概論との重複があるかもしれないと思われました。橋元先生の授業内容とご相談の上、既習事項を省いて頂けると、さらに先生が教えたいと思われるところまで手を伸ばす機会があるのかもしれないと思われます。
- ・時間管理がとてもしっかりしている授業で感心しました。
- ・内集団ひいきのデモンストレーションの回答がはっきりしていたので、驚きました。
- ・丁寧に授業を進められており、たいへん参考になりました。
- ・社会的アイデンティティに関する実験について説明されつつ、さらにその限界についても触れられておりました。きちんと準備をされており、反省させられました。
- ・受講生が参加するしかけがうまく機能していることに加えて、今まさに授業内で起きている現象と関連

づけて問題意識を高めていったり (eg.傍観者効果)、先行オーガナイザーの提示をして理解を深めていける授業の構成上の工夫についてもたいへん参考になりました。

- ・声が聞こえているか、等こまめにチェックをされていて配慮が行き届いていた。
- ・質問へのFBが、要点を上手にまとめて分かりやすい形で行われていた。
- ・簡単な実験を導入するなどの工夫が、パパパコメント、slidoの活用など、遠隔であっても臨場感あふれる双方向的なやりとりが実現する工夫とともに盛り込まれており、最後まで、高い動機づけを維持できた。
- ・授業資料の随所に、写真などが盛り込まれており、分かりやすかった。
- ・授業の目標が最初と最後に提示され、まとまり感が高まった。
- ・学生時代(および公認心理師試験勉強時)を思い出して、社会心理学の魅力をおおいに実感し、授業の方法についても、たくさんのヒントをいただきました。
- ・昨今、発達障害等を持っている学生が増えている中で、先生の「あらかじめ予告をして見通しを与える」「口頭だけでなく文字で表現する」「今読んでいるところをマーカーで示す」「具体的に例を挙げて説明する」といった点は、たくさんの学生の助けになると思いました。気持ちが安定し、学習への集中力を増し、それによって理解も促されるはずです。こうしたことは特別なニーズをもつ学生だけでなく、ユニバーサルデザインとして活用していけるといいのかもしれないと感じました。
- ・目的と目標を分けて明示しているスライドは、今日の授業で何をするか、何を理解できるようになるかがわかりやすく、いい試みだなと思いました。さりげないことでしょうか、ぜひ参考にしたいと思います。
- ・1時間後ぐらいの3分休憩は私もとりにれています。オンラインの授業の場合、複数の感覚が同時に刺激されることが多いので疲労がたまりやすく、集中がとぎれがちになるため、とても有効な配慮だと思っています。
- ・投票機能、パパパコメント、Slidoなどさまざまなツールの活用についても参考になりました。私のような苦手意識が先にある人間にとっては授業内で活用することはまずないでしょうが、積極的な参加を促すいい刺激になるツールで、感動していました。ただ、パパパコメントは、視覚刺激として長時間の講義でだらだらと流されるのは、やや落ち着かなくなってしまうなあとちょっと思いました。
- ・スライドショーにせず、マーカーを引きながら進めるのも効果的なやり方だと感じました。
- ・質問への回答は、質問5個程度に絞って、詳しく答えるやり方は参考になりました。
- ・関連するウェブ記事を適宜その場で紹介するのは学生の関心を高めると思いました。
- ・自分はいつも挙手でやっていたのですが、アンケート機能を使うのはよいと感じました。
- ・自分の授業と関連が深いトピックを扱っていることを確認できたので、(ここ2年ほどオンライン授業が多くてできていないのですが)従来やっていたように、専攻内で互いの授業配布資料の共有をしておくとうれいと感じました。いい意味で互いの授業を関連付けて話をできると相乗効果が生まれるかもしれませんね。
- ・パパパコメントやslidoは私も授業で使っていますが、両者の使い分けが参考になりました。slidoは「いいね」をうまく活用できるんですね。

## 2. 質問

・中間に入れた短時間の休憩は、密度の濃い授業内容の消化のためにも効果的だと感じましたが、休憩を導入する意図がとくにあるようでしたら教えてください。

・(以下、個人的つぶやきレベルのものですが) これだけ見事にリアルタイムでの相互交流がなされると、意見交換に尻込みしがちな対面授業よりも教育効果があるとも思えました。例えば、対面授業で隣の友人と話し合うというような方法以上に、異なる多様な意見に触れる機会も提供できるようです。正木先生がこのあたりを、あるいはオンラインでの工夫の制約ないし限界についてどのように考えているのか、興味があるところです。

## ③ 主任・委員長等の意見

このたびは授業を見学させていただき貴重な機会をいただき、どうもありがとうございました。目的と目標の明示、学生との共同構築やインタラクションの方法など、大変参考になりました。

#### ④ 担当者の意見

このたびは貴重な機会、ならびにコメントをいただきありがとうございました。ご参考になる授業ができていれば幸いです。以下、いただいたご意見・ご質問へのお返事です。

<ご意見に関して>

##### ・「目的と目標」「休憩の活用」などの工夫について

担当者が以前(2017-2019)に東京大学で所属・運営していた「東大 FFP」という大学院生向け FD プログラムで、栗田佳代子先生(東京大学・大総センター)に教わった手法です。「インタラクティブ・ティーチング」という名称でオンライン教材化(Youtube)もされています。

##### ・パパパコメントの注意点について

視覚的に負担・落ち着かないという点については、おっしゃる通りと思っており、そうしたデメリットを持つツールだと思っています。学生には「使用感を積極的に教えてほしい」と数回の授業に渡って伝え、感想・意見・質問収集の Google Form(授業後に毎回リアクションペーパー代わりに実施)で様々な反応をもらいました。今のところはネガティブな反応はみられませんが、前掲の通りデメリットもあるツールと思いますので、学生の反応を見ながら、使い方に注意・改善を重ねる必要性が強いツールかと思っています。

##### ・他授業との教材の共有や連携など

私自身もとても関心があり、希望も強く持っています。専攻内・専攻間で扱うトピックや深さを共有することが望ましいと思いますので、ぜひそうした機会を設けていきたいです。一方で、「あの授業でもこの話が出てきて、つながりが実感できた」という、一種のアハ体験(?)のようなコメントを受けることも多く、個人的には「トピックがある程度重複する」ことにも積極的な意味があると思うこともあり、その点も意識していきたいと思っています。

<ご質問に関して>

##### ・授業中に設けた短時間の休憩の意図はなにか?

一般的に「集中して話が聞けるのは 20 分まで」という説(俗説)もあり、少なくとも 20 分に一度は何らかの休憩かアクション(意見を書く、投票する、挙手をする)の時間を設けています。加えてオンライン授業では、物理的に「目・耳が疲れる」という欠点もあるので、緩和のために、休憩を入れています。

##### ・オンラインでの工夫の制約や限界はなにか?

私のパーソナリティや話し方、授業スタイルでは、オンライン授業の方が活性化しやすい印象があります。ご意見でいただいたように、対面では限られる交流相手や接する意見が、オンラインでは壁が取り払われるという点に強みを感じます。そのため、私がもし「オンラインと対面、どちらかを自由に選んでよい」となれば、「学習効果が高いからこそ、オンラインで実施したい」という希望もありうると思います。

一方で、次の 3 点には限界を感じています。

- 1) **グループディスカッションがしづらい** …受講環境や意欲が学生によって異なるうえに、一体感を持ちにくく、グループディスカッションや協働の場面は作りにくいと感じています。
- 2) **「ちょっと隣と話す」ができない** …以前はピア・インストラクションと呼ばれる「隣の人に〇〇について説明する」という方法も対面時には使っていました。しかし、オンラインでは実施が難しく、限界を感じています(一方で Slido のような多様な意見にはオンラインの方が触れやすい利点はある、一長一短と思います)。
- 3) **教員に話しかけるハードルが上がった** …「質問→回答」の繰り返しは積極的に行なっており、授業ごとかなりの質問は出ています。ただし、学生からすると深い質問や相談がしづらくなったかもしれません。一方で、オンラインだからその熱意を直接感じられていないだけで、同じ熱量をもって感想・質問を書いている可能性も十分があるので(事実、長文の感想をいただくことも多いです)、担当者の勘違いかもしれません。

## 2021 年度 教員相互の授業参観報告書

提出日 2021 年 12 月 1 日

---

科目・専攻・委員会名 心理・コミュニケーション学科コミュニケーション専攻

---

主任・委員長等責任者氏名 有馬明恵

---

|         |                         |           |                                    |
|---------|-------------------------|-----------|------------------------------------|
| 授 業 科 目 | コミュニケーション概論 II (情報デザイン) | 授 業 担 当 者 | 渡辺隆行先生                             |
| 授 業 形 態 | Zoom による遠隔授業            |           |                                    |
| 授業参観実施日 | 11 月 24 日 (水) 1 時限      | 参 観 者 数   | <u>4</u> 名<br>(内、非常勤講師 <u>0</u> 名) |

(①授業科目の選定理由、実施後の②参観者の意見、③主任・委員長等の意見、④担当者の意見、⑤その他、自由にご記入ください。①～④は必ずご記入ください。)

① 授業科目の選定理由

遠隔授業ではあるが、インタラクティブなクリエイティブな授業を積極的に展開している授業内容になっているため

② 参観者の意見

ブレイクアウトセッションを、時間を区切り、用途に応じて3回にわたって活用している点が勉強になった。3回それぞれのセッションの前に、受講生に向けて各セッションを行う目的と意識が明瞭になるように指示出ししており、思考のプロセスの道しるべになる機能を果たしていた。ただ何となくブレイクアウトセッションを授業で取り入れるのではなく、より効果的に活用するヒントを得ることができた。また、それぞれのブレイクアウトセッションで時間を区切ることにより、学生に時間内できちんと作業をするという意識づけにもなり、学生の計画性が育まれるのではないかと感じた。そして、学生達は慣れた様子で Miro というソフトも同時に操作しながら、他グループの様子も観察しつつ自分たちのグループの意見をまとめて発表資料を作成していた。オンライン上でありながら複数のタスクをこなしてお互いのコミュニケーションも取れているように見受けられた。短い時間でもアイデアを出し合ってまとめるという作業に取り組んでいた。

Miro というオンラインコラボレーションツールを用いることにより、対面授業で模造紙と付箋を用いてディスカッションする形式のグループワークを難なくオンライン上でも行うことができていた。かつ、対面では難しい他のグループのワーク情報もマップ上に表示されるため、自分たちのアイデア出しが行き詰まった時に、あらためて特徴や補足点を把握・発展させることができていたようである。このグループワークの方法が大変参考になった。

遠隔授業の参加者が100名弱(登録者数113名)であり、積極的なグループワークに参加できない(参加することが得意でない)受講生もいるかもしれない。その場合には、どのような配慮をすべきか(代替措置はあるのか)、少し気になった。

③ 主任・委員長等の意見

見習いたい、参考になった点です。

●SA を上手に使っている

教員が学生全体に向けて出した指示(ブレイクアウトルームですること)をチャットで発信させていた。

学生に指示が通りやすくなると感じた。

#### ●前週のコメントの紹介

かなりの時間(9:16 まで)をかけて、前週の授業に対する学生たちのコメントについて紹介し、さらにそれに対する教員のコメントを述べていた。

(自分の授業では、3～5分ほどで済ましたり、コメントを予めまとめて資料として Google Classroom にアップし「見ておくように」ということで済ますことが多いが、前の週に学んだことの復習になり、今週の勉強への導入になる可能性があると感じた)

#### ●アイスブレイク(3分)

ブレイクアウトルームを利用してのグループディスカッションやグループワークを課す前に、話しやすいトピック(自分が気に入っているもの)で、話す素地を作っていた。いきなり課題を課すよりも学生たちがリラックスできると感じた。

#### ●授業のコンセプト：プレイフルな学び

確かによいコンセプトであり、学生のやる気も触発されると思う。

#### ●グループワークを多用する授業

ブレイクアウトルームを何度も挟みながら、Miro というアプリケーションも使用して、学生参加型の授業が展開されていた。顔出しを強要しないことで、ディスカッションへの参加のハードルを下げていた。

#### ④ 担当者の意見

##### ● オンラインで学生参加型のインタラクティブな授業をする工夫：

- ▶ 受講生が 100 名程度の授業で模造紙 2 枚を机に広げて付箋紙を貼っていくワークすることは困難であるが、オンラインならばコラボレーションツールを使うことで実現できる。週が変わってもオンラインなら作業の途中結果を保存できるし、授業終了後にグループで集まって作業することもできるし、参観者の意見にも書かれていたように他のグループの作業を見ることで自分たちの作業のヒントにもなるなど、リアルな時空間に制限されないオンライン作業には大きな可能性がある。出席状況なども考慮して参加度が一樣になるように大人数の受講者をグループ分けして、同じグループで週をまたいで作業することもオンラインなら簡単に設定できる。ZOOM と Miro を組み合わせたオンライン授業は学外では広く普及している方法であるが、双方向型のライブなオンライン授業には対面授業にはないこのような可能性があることを本学の参観者の方々に知っていただけて良かったと思う。
- ▶ アイスブレイクで「身の回りにあるモノをカメラに写して説明する」課題を選んだのは、カメラオンにして発言するきっかけを作るのと、紹介したモノを通してどんな人か他の人にわかる機会になり、グループワークが和むからである。
- ▶ オンライン授業で何よりも大事なことはネットワーク接続環境を保証することであるが、一部の学生はネットワークが貧弱で、ZOOM から落ちてしまうなどの問題がある。

##### ● プレイフルな学び：渡辺は「プレイフルな学び」をコンセプトとして授業を設計しているが、「プレイフルな学び」は学生参加型の主体的で深い学びを行うことでもあるので、文科省が求めているアクティブ・ラーニングにもなっている。学生もこのコンセプトを共有することにより、積極的に授業に参加する態度が自発的に生まれている。

##### ● グループワークが苦手な学生への配慮：授業参観の回はいつもより出席者が少し少なかったので、授業参観を回避した学生がいたのかもしれない。後期の授業を始める際に、グループワークをする理由を受講生に説明し、何回かのグループワークを経験する中で、グループワークが苦手な学生も、グループワークで人の意見を聞く効果、人と考えを交換することで自分の考えが深まる効果、協働作業で良いモノが生まれる効果を実感し、批判されないことが保証されている安心感を得て参加度が向上し



ている。オンラインでも友達ができて良かったという感想もある。それでもなおグループワークが苦手な学生がいることは理解しており、そういう学生もいるので無理に発言を強要しないことは受講生に理解してもらっている。グループワークができないから不合格になるような成績評価もしていない。なお、配慮願いが出ている学生にグループワークができないと書いている学生はいない。

2021 年度 教員相互の授業参観報告書

提出日 2022 年 1 月 20 日

科目・専攻・委員会名 数理科学科・数学専攻

主任・委員長等責任者氏名 竹内 敦司

|   |                                 |           |                    |
|---|---------------------------------|-----------|--------------------|
| 授 業 科 目   | 微分積分学 II                        | 授 業 担 当 者 | 厚芝 幸子              |
| 授 業 形 態   | Google Drive 上の動画ファイルによるオンライン形式 |           |                    |
| 授 業 参 観 実 施 日   | 12 月 20 日 ( 月 ) 1 時 限           | 参 観 者 数   | 3 名<br>(内、非常勤講師 名) |
| <p>(①授業科目の選定理由、実施後の②参観者の意見、③主任・委員長等の意見、④担当者の意見、⑤その他、自由にご記入ください。①～④は必ずご記入ください。)</p> <p>① 数理科学科 1 年次の必修科目であり、学科全体でその学習内容を把握しておくことが非常に重要であるため。</p> <p>② これまで習ってきた定積分を、極限をとることによって広義積分に繋げてゆく話として、授業動画の中では式のみで説明されていたが、関数のグラフを描いて説明することで、視覚的なイメージと合わせて、より理解が深められるように思われる。また、講義スライドを用いてゆっくりと説明されていたのは、受講生が自分でノートを取ることを想定されていたように思うが、動画の視聴ということを考えれば、受講生は一時停止、巻き戻しなどを使用するので、もう少しスピード感があっても良いように感じられた。</p> <p>③ 微分積分学 II で今回、取り上げられていた広義積分の話は、高等学校から慣れ親しんできた積分の概念をより拡張させたものであり、非常に重要な単元である。オンデマンド方式にて授業が行われたため、受講生にとっては理解度合いに応じて動画を止めながら授業を受けることができること、自らの理解をより確かなものとするために復習で動画を見ることができると、色々とメリットが大きいように感じられた。また単に講義スライドを順に流してゆくのではなく、受講生がノートを取れる時間をしっかりと確保されていたように思われた。例題をたくさん取り上げ、習ったばかりの概念を受講生が手を動かして考え、しっかりと定着させる工夫も見受けられた。</p> <p>④ 第三者の客観的なコメントは、授業を担当する側自身ではなかなか気がつきにくいものであるため、非常に有り難い。今回寄せられた色々なコメントを基にして、今後の授業の展開の中で反映させられるように努めてゆきたい。</p> |                                 |           |                    |

2021 年度 教員相互の授業参観報告書

提出日

2022 年 6 月 2 日

科目・専攻・委員会名

数理科学科・情報理学専攻

主任・委員長等責任者氏名

荻田 武史

|   |                 |           |   |
|---|-----------------|-----------|---|
| 授 業 科 目   | 現代物理学 B         | 授 業 担 当 者 | 尾田 欣也   |
| 授 業 形 態   | ハイフレックス形式       |           |   |
| 授業参観実施日   | 12 月 15 日 ( 水 ) | 1 時限      | 参 観 者 数<br><u>5</u> 名<br>(内、非常勤講師 <u>0</u> 名) |
| <p>(①授業科目の選定理由、実施後の②参観者の意見、③主任・委員長等の意見、④担当者の意見、⑤その他、自由にご記入ください。①～④は必ずご記入ください。)</p> <p>① 2021 年 4 月に着任された尾田先生の授業の様子を参観するため。</p> <p>② 教室での板書による授業を撮影して Zoom でも配信するという形式のハイフレックス授業であり、常に学生（対面、遠隔双方）の状況を確認しながら授業を進めていることに、学生への配慮が伺えた。授業自体も、熱意を持って実施して頂いていることが確認できた。</p> <p>③ 板書は写真で撮影してオンラインで学生と共有しており、学生が授業中に教員の説明を聴くのに集中したり、学生が後で復習したりすることへの配慮がなされていると感じた。参観した授業では、一つの問題を複数の方法で解いてみせたり、定理の直感的説明を行ったりして学生の理解を深めようとする努力がなされており、その上で一つの話題ごとに丁寧に教室・Zoom 双方の理解の確認が行われていた。少し高度な話題や他の授業の内容との関連についてのコメントも時折なされ、学生の意欲を刺激してよいと感じた。一方で、授業の進捗について、シラバスの予定からやや遅れているように感じた。</p> <p>④ 皆様からのコメントがとても参考になった。授業の進捗については、ある程度、履修の前提条件を示した上で進捗を早めることを、もう少し意識してみようと思う。</p> |                 |           |   |

2021年度 教員相互の授業参観報告書

提出日 2022年 01月 20日

科目・専攻・委員会名

キリスト教学科目運営委員会

主任・委員長等責任者氏名

遠藤勝信

|   |                      |       |                   |
|---|----------------------|-------|-------------------|
| 授業科目  | キリスト教学 II (キリスト教と社会) | 授業担当者 | 加山真路              |
| 授業形態  | 同時双方向型、後日オンデマンド型     |       |                   |
| 授業参観実施日   | 12月7日(火曜) 3時限        | 参観者数  | 3名<br>(内、非常勤講師0名) |
| <p>①授業科目の選定理由</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>キリスト教社会倫理の研究者(非常勤)の授業を参観し、キリスト教と経済思想の関わりを扱う講義とそのクラス運営から学ぶ。</li> </ul> <p>②参観者の意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>レベルの高い密度の濃い講義内容を、分かりやすい言葉を用いつつかみ砕いて説明していた。</li> <li>講義を聴きながら当日の資料を穴埋めしていく仕方で授業が進められており、受講生の理解のために効果的な授業展開であった。</li> <li>当日の資料の他に復習用資料と予習用資料も用意され、講義外学習が充実していた。</li> <li>学習意欲のある学生が深く学べるように、新聞記事や参考文献も多く紹介されていた。</li> <li>授業の展開の仕方、講義内容共に有意義な授業であった。</li> <li>現代の問題に興味を持つ学生たちがキリスト教に関心を持つきっかけを与え、社会問題に対してキリスト教がどのように貢献し得るのかを考える良い機会となっていた。</li> </ul> <p>③主任・委員長等の意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>キリスト教思想と現代社会との関係を、広域的に網羅しつつ具体的に扱う意義深い講義であった。</li> <li>シラバスに明記された綿密な授業計画と具体的な課題の提示から、負担感を感じず(所謂、難単)履修者が少ないのが残念である。しかしその分意欲的な学生が履修しており、キリスト教に対する理解を深めている。今後もこのような充実したクラスを履修者の人数に関わらずに保持して行くことが本学の学習レベルを維持する上で重要である。</li> </ul> <p>④担当者の意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今回の講義は今年度新たに加えたもので、少々盛り沢山になった感がある(構成の面)。</li> <li>途中から受講する授業参観者のために用意した「導入部(これまでの復習)」の割合が増えた分、後半の講義内容が尻切れになった点が残念だった。</li> </ul> |                      |       |                   |

2021 年度 教員相互の授業参観報告書

提出日

2021 年 12 月 23 日

科目・専攻・委員会名

第一外国語運営委員会

主任・委員長等責任者氏名

川崎典子

|  |                        |           |                      |
|--|------------------------|-----------|----------------------|
| 授 業 科 目  | Communication Skills B | 授 業 担 当 者 | William Feeney 先生    |
| 授 業 形 態  | ハイフレックス授業を Zoom で参観    |           |                      |
| 授業参観実施日  | 12 月 2 日 ( 木 ) 3 時限    | 参 観 者 数   | 7 名<br>(内、非常勤講師 2 名) |
| <p>(①授業科目の選定理由、実施後の②参観者の意見、③主任・委員長等の意見、④担当者の意見、⑤その他、自由にご記入ください。①～④は必ずご記入ください。)</p> <p>① 1 年次必修科目の担当者間の意見交換・情報共有に役立てるとともに、ハイフレックス授業にオンラインで参加する立場を体験する機会、今後の第一外国語教育の構想の手がかりを得る機会とする。</p> <p>② A. How did you find Feeney-sensei's lesson?</p> <p>◇ The lesson went well. The instructor and students seemed to have a good rapport. Most of the students seemed eager to participate. I am curious, however, how students remotely attending would be able to interact in the pair work?</p> <p>◇ "I found the lesson very organized. The class atmosphere was very friendly and warm."</p> <p>◇ "The lesson was very well-organized, and the students seemed to know what they are expected to do, and to enjoy it, especially during the pair-work exercises. I think increasing the turn-taking between the instructor and the students might make the lesson more effective. For example, after the group discussion on the thought-provoking questions from the textbook, the instructor might want to have each group present their answer to one of the questions, and comment on them. The students had their opinions but were not able to express themselves in English. Since they seemed to understand and agree with the instructor's suggestions, they can be encouraged to repeat the suggested sentence. I am afraid that the presence of online visitors might have prevented the instructor from feeling free to chat with the students during the discussion period.</p> <p>◇ "テキストをなぞるような授業で、紙面にある Questions &amp; Answers の答え合わせが授業の大半を占め、英語コミュニケーション授業に必要な authentic, spontaneous な場面がなかったのが残念。教員自身が、コミュニケーションの授業として満足しているのか、葛藤が感じられる授業だった。</p> <p>◇ First I wish to express gratitude to Feeney-sensei for kindly allowing us to audit his lesson. The way he organized the class, beginning with the brief introduction to the topic and followed by the blending of individual, pair and small group activities, was clearly effective, and helped the students concentrate on the contents.</p> <p>◇ He is a very proficient teacher. I found his explanation of the activities, cultural background reflections on the topic, and enunciation and speed of speaking highly effective.</p> |                        |           |                      |

B. Do you think that Communication Skills A and B are effective in enhancing first-year students' English proficiency? What possible improvements can you think of?

- ◇ Given the varied educational experiences and backgrounds of the incoming students, I think the CS course materials work fairly well. I feel that some professional roleplaying/dialogues would benefit the students as well. Where the target language/setting would reflect business/work situations the students will likely encounter in their post-collegiate careers. Additionally, including some speakers with "non-standard" accents in the listening exercises would enhance the students listening abilities and better prepare them for the reality of interaction with non-British/Commonwealth/non-North American English speakers. Additionally, implementing exercises that get the students comfortable with asking "superiors" questions.
- ◇ If there are fewer students in a class (for example, 10students), each student has more chances to speak.
- ◇ "The dictation exercise can be done outside the classroom, so that the students can have more time interacting with the instructor in class. The course would be much more effective if the classes were much smaller, so that each student would have to respond to the instructor every 5 minutes."
- ◇ "学生にとってはかなり受け身な場面が多い授業だったので、オンラインでマンツーマン授業を自由に受けさせた方が、コミュニケーションなレッスンを体験できると思えた。  
現行の改善点として、テキストのレベルが学生に合っていないので、レベルごとに設定できるのが良い。AとBを通して同じテキスト、同じ教員が担当するのでは、学生の満足度を増す機会が限られるので、半期履修にして違う内容を学べる機会があった方が良い。コミュニケーションスキルの授業が、アウトプットするだけの場になってしまっていたので、Discussion Skills と組み合わせるなどして、スキル特化ではなく、内容についても学ぶような英語科目にした方が良い。"
- ◇ It seemed to provide a good opportunity for the students to practice English conversation with awareness of cultural differences.
- ◇ I do not teach the CS course, and this is the first time I observed the course. However, I teach the second year DS, and I believe that a course such as CS is of great value to prepare students to engage in discussions beyond the conversation level.

③ Participating in the observation class and receiving feedback from everyone has actually made me feel more integrated within the university after the many months of zoom teaching. In the end, I am glad for the contact and the feedback. Many thanks.

Reflecting on managing the class itself, I thought the open class really highlighted the difficulty of incorporating online students while teaching a hybrid class. For example, I find it difficult to manage the camera while teaching because my attention is usually focused on students sitting in the classroom. I also tend to walk around the classroom and engage students as they work. As a result, I often forget about the camera and online students can be left staring at the blackboard for long periods of the class. I am afraid this may contribute to a feeling of disconnection for those online as I have noticed a greater level of passivity and hesitancy among students participating via zoom in hybrid classes. Actually, online students appear more hesitant to talk in hybrid classes than in classes that take place entirely on zoom. In fact, some students seemed to respond better when the classes were entirely online. I was able to get some of the extremely shy students to regularly participate, perhaps because my image filled the screen and they felt it to be a less public interaction. Hybrid classes seem to emphasize the separation for those online and I am not yet sure how to respond effectively to the disconnect.

In terms of general suggestions, I think that smaller class sizes would make CS classes more effective. I am sure this seems like an obvious suggestion, however, smaller classes would enable students to spend more time actively communicating and becoming comfortable interacting in English. Foremost, it would provide

more contact time with each student and let instructors observe each student in group activities more often. Currently, the energy and enthusiasm of the class often stalls when students have to wait long periods between speaking turns. Smaller class sizes would reduce the time between speaking turns, giving students more time to interact and encourage them to stay active and engaged. Finally, smaller sizes might also make it easier for students to build rapport and overcome some of their reticence to speak in front of each other. (On a question on how to handle a class with one student on line) If there is an odd number of students I usually do the task with the partnerless student myself. Often that will be an online student. Depending on the task, I am usually able to serve as partner for the single student and still have time to circulate and check in with others in the room.

④ コロナ禍で教員同士の接点が少なくなっている中、学生の学習効果を上げる可能性および現行のクラス編成の問題について非常に良い意見交換の場となった。授業提供者と参加者のご協力に感謝するとともに、今後のカリキュラムの整備に活かしたい。⑤その他当該授業を越えて Communication Skills 等の第一外国語科目について寄せられたコメント

⑤その他当該授業を越えて Communication Skills 等の第一外国語科目について寄せられたコメント

C. What difficulties have you experienced in teaching Communication Skills or other FFL courses? Face-to-face: Online: Hyflex:

- ✧ Students rarely, if ever, ask questions when they need help. Also, getting the students to participate in discussions - often in Zoom breakout rooms they will not speak at all, or if they do it is in Japanese.
- ✧ Some students have no confidence in exposing themselves to English in front of classmates. Group works work.
- ✧ It is possible to teach a hyflex class, thanks to the equipment we now have in the classroom, but having examinations in a hyflex environment is very different. I hope that the university understands the difficulty some of the instructors are going to face.
- ✧ 30人以上のクラスだと時間内の feedback が厳しい。(F2F/Online)
- ✧ In group activities, some students tend to remain silent.
- ✧ I think to be fair to all students is quite difficult with large classes with all of these class formats, so I would like to ask consideration for smaller class size if possible.

D. Do you have any additional comments, questions, or concerns you would like to share with other teachers?

- ✧ If the teacher does not use the textbook, what would the class be like?
- ✧ "I am very grateful for Feeney-sensei's generosity to let us observe his class. Also, I appreciate the scanned pages of the textbook. Thank you. "
- ✧ "I appreciate all the help that we got from the coordinators at the beginning of our transition to online classes. In addition, I welcome continued guidance and the chance to hear from other teachers regarding what and how to conduct our classes.
- ✧ I am also grateful to be able to continue using Google Classroom even though we are back face-to-face. "

2021年度 教員相互の授業参観報告書

提出日

2021年 12月 20日

科目・専攻・委員会名

第二外国語運営委員会

主任・委員長等責任者氏名

白井 恵一

|  |                             |       |                    |
|--|-----------------------------|-------|--------------------|
| 授業科目   | 中国語初級                       | 授業担当者 | 大橋 義武              |
| 授業形態   | ハイフレックス（対面及び遠隔）遠隔は Zoom を使用 |       |                    |
| 授業参観実施日  | 12月10日（金）5時限                | 参観者数  | 3名<br>（内、非常勤講師 0名） |
| <p>（①授業科目の選定理由、実施後の②参観者の意見、③主任・委員長等の意見、④担当者の意見、⑤その他、自由にご記入ください。①～④は必ずご記入ください。）</p> <p>①・毎年各言語ローテーションで専任の授業を参観している。今年は中国語。<br/>・新任の先生の授業を参観してハイフレックス授業方法検討の機会とする。</p> <p>②（対面参観者）対面ならではのコミュニケーションのある自然な通常型授業を成立させつつ、うまく遠隔参加学生にも対応し、ハイフレックス授業を実現していた。黒板のみならず、同様の内容がほどよい時間差を置きつつパワーポイントでモニターに提示され、画面共有されているので、学生はノートを取りやすいと思われる。早くノートを取り終わった学生には発音練習を促すなど、授業を隅々まで充実させる工夫が見られた。全体に、たいへん参考になった。<br/>（遠隔参観者）黒板とパワーポイントでほぼ同じ内容を並行して提示されていた点がとてもよいと思いました。<br/>ハイフレックスではオンラインの学生に限らず、黒板が見えにくい、あるいは逆にパワーポイントが見えにくいということがあると思います。（アクリル板の陰になるなど）その際に同じ内容がスライドでも提示されると学生は安心すると思います。黒板に書きながらも常に学生に話しかけていらしていたのも授業の流れが途切れずによかったと思いました。先生のお声はとても聞きやすかったです。学生の声は聞こえにくいこともありました。（これは機器と学生の声の大きさの問題なので仕方ないですが）<br/>また、程よいタイミングで伝統演劇の話がされていて、勉強に少し疲れたところに頭を休ませられるので学生にとって良い時間だと思いました。<br/>今後自分の授業でも参考にさせていただきたいと思います。ありがとうございました。</p> <p>③今年度後期は本学で初めてハイフレックス型授業が全面的に実施されたため、この教育効果と問題点を確認するため、①に記したように当該授業を参観対象とした。ハイフレックス型授業では、教室内の対面受講者と遠隔での受講者をどのように互いに違和感なく融合させるかが最大の課題となるが、②の参観者の意見にあるように、この点でこの授業は大いに成功していると言って良く、非常に参考になるものであったと考えられる。また対面授業、遠隔授業それぞれに短所と長所があるが、当該授業はそれぞれの短所を最小限にしつつ、長所を最大限に活用したものになっていて、その点においてもこの授業はひとつのモデルケースともみなすことができ、今後の初級外国語授業運営に大いに参考になるものであったと考えられる。以上を鑑みて今回の授業参観は非常に有意義な成功事例となったと結論する。</p> |                             |       |                    |



④対面及び遠隔のハイフレックスであることに鑑み、授業においては教員の解説が明確に受講者へ伝わることをまず旨とした。宿題のチェック、会話文の解説と練習、新規文法の解説のいずれについても事前にパワーポイント資料を準備し、授業時は順を追ってこれを掲示した。教室では学生の筆記速度が見えるため、それに合わせて進行は調節した。(全面的にオンラインでやっていた時よりは、ペースはゆっくり目になっている。)

また、補足的説明が必要になった箇所については板書を行ったが、これも教室とカメラ越しの遠隔者とに等しく伝わるよう配慮した。ただし、重要事項はパワーポイント資料の画面共有をしながらであるため、遠隔者には板書が小さく見えた可能性がある。(これまでのところ学生から「見えなかった」という連絡は受けていないが、注意していく必要は感じている。)

語学の初級授業であることもあり、教室では発音練習や文の読み上げ練習に力を入れさせた。教室で受講者の発音を聞いて、弱点と思われるところへのアドバイスを返すように心がけたが、遠隔者の発音までは同時並行でチェックはできず、この点は授業としてやや課題が残る。

問題に回答させるセクション(作文問題など)は、以前ならば「前に出て黒板に書かせた」ところだが、感染症対策の観点から学生が動き回することは避けさせ、「その場で答えを読み上げる」スタイルで統一した。回答時に発音のチェックができる反面、「正しい字が書けているか」その場ではチェックできないという問題もある。ただし、毎回宿題で出している「復習プリント」は正しく書き取りをさせる仕様になっているので、「書き」についてある程度はフォローもしている。

初級授業はペアの先生との連携で行っているが(中国語は統一教科書をリレー形式で進める)、役割分担上私は文法解説を行わせてもらうことが多い。その分逆に、学生同士を組ませて会話練習、などといったことは手薄になりやすい。ここは自分の授業の弱いところである。

授業内容についての質問は、ある程度進むごとに受講者に呼び掛け、疑問点を残さないよう促している。ただし、教室で(ほかの人たちの前で)質問することはやや勇気がいるのか、「何か質問は?」という呼びかけにその場で声をあげる学生は極めて少ない。そのことも踏まえ、「いま言いにくければ、授業後でもメールでも構わない」とも併せて伝えるようにしているが、授業後には数人ほど質問に来る学生がある。(質問のしやすさ、気軽さという点に関して言えば、オンライン授業のメリットは大きいと感じる。特に「チャット機能」が有効で、タイミングや人目を気にせず授業担当に質問できることは学習者の質問意欲を高めていたようだ。)

なお私は、毎回授業の合間に語学をやや離れて「中国文化を紹介する」コーナーを入れているが、こちらの効果については担当者としても気になっている。今回は中国の伝統演劇の化粧(隈取り)について短く話した。例年だと、授業評価アンケートで一定数「合間にきいたはなしが面白かった」と返ってくるが、オンラインから対面に切り替わった特殊な状況の今期における学生たちの受け止めがどのようなものか、やや読めない。ただ、語学の背後には国や地域の歴史や文化が控えているということは常に伝えていきたいと考えているので、今後も工夫しつつ(また授業本体を圧迫しない範囲で)取り扱いたいと考えている。

2021年度 教員相互の授業参観報告書

提出日

2021年 11月 30日

科目・専攻・委員会名

日本語科目運営委員会

主任・委員長等責任者氏名

熊谷智子

|         |                              |           |                    |
|---------|------------------------------|-----------|--------------------|
| 授 業 科 目 | 日本語表現法                       | 授 業 担 当 者 | 内田宗一先生             |
| 授 業 形 態 | 対面によるアクティブ・ラーニング型授業（講義部分を含む） |           |                    |
| 授業参観実施日 | 11月 22日（月）3時限                | 参 観 者 数   | 1名<br>(内、非常勤講師 0名) |

(①授業科目の選定理由、実施後の②参観者の意見、③主任・委員長等の意見、④担当者の意見、⑤その他、自由にご記入ください。①～④は必ずご記入ください。)

- ①本科目に関して豊富な教授経験をお持ちの先生の授業、教室活動を参観して参考とする。
- ②第9回の授業「書きことばと話しことば(2) 口頭表現の基礎」を参観した。入念に準備・運営された授業で、同じ科目を担当する者として、特に以下の点が非常に参考になった。
- ・90分の内容構成  
前回の振り返り（コメントへのフィードバック）に始まり、講義と個人・ペア活動が交互にリズムよく組み合わせられていた。ポイントを提示されて活動を行い、フィードバックを受けて活動を確認するというパターンで、受講生の集中も切れず、気づきと落とし込みが効果的に促進されていたと考えられる。
  - ・配布・提示資料  
内容的に行き届いていると同時に、パワーポイントによる説明を聞きながら各自で手元の配布資料の空欄に記入させることで、注意や記憶を促す工夫もなされていた。
  - ・授業の雰囲気・環境づくり  
受講生がリラックスし、意欲をもって臨めるような明るい雰囲気づくりと、折々でのタイミングの良い助言や励ましが印象的であった。また、席順やペアも、異なる学年や専攻の学生を組み合わせるよう考慮されており、共通科目の長所が活かされていた。
- ③コロナ感染予防の点から、ペアワーク時の互いの距離や向き合い方の角度など、細かい配慮がなされていた。ペアワーク・グループワークの多いこの授業を、限られたスペースで、対面で担当なさる先生方のご努力、そして心理的なご負担もかなりのものであらうと、感謝とともに強く感じた。
- ④ペアワークを取り入れた授業は参加学生の気質や意欲にその成否が左右されがちな面があるが、授業参観当日の授業においては各受講生が積極的に作業に取り組んでくれたため、時間配分も含め、全体的にスムーズに授業を運営することができた。これは、ペアワークを行う旨を前の週の授業で予告し、あわせてペアワークに向けた事前作業を教室外学習として指示しておいたことが有効に働いたものかと推察される。ペアワークやグループワークの要素を含む本授業においては、例年、座席は指定制とし、学年や専攻の異なる者が隣同士となるように調整している。これは、ペアやグループを組み合わせる際にうまく動けずにあふれてしまう者が出ることを防ぐということと、互いに異なる視点から助言しあえるようにという意図によるものである。具体的な席順は、従来は学生番号によって機械的に決めていたのであるが、今年度については対面授業への移行前に全面遠隔授業の期間があり、その間に提出された課題やコメントシートによって各

受講生の個性や力量がある程度把握できたため、それをもとにペアのバランスを考慮した席順を設定することができた。この点も、上述のように授業参観当日のペアワークがうまく運んだことの要因として働いた可能性があると思われる。

2021 年度 教員相互の授業参観報告書

提出日 2021 年 12 月 29 日

科目・専攻・委員会名 情報処理教育運営委員会

主任・委員長等責任者氏名 春名太一

|         |                      |           |                                    |
|---------|----------------------|-----------|------------------------------------|
| 授 業 科 目 | 情報処理技法 (UNIX リテラシ)   | 授 業 担 当 者 | 加藤由花                               |
| 授 業 形 態 | 対面授業                 |           |                                    |
| 授業参観実施日 | 11 月 22 日 ( 月 ) 2 時限 | 参 観 者 数   | <u>2</u> 名<br>(内、非常勤講師 <u>0</u> 名) |

(①授業科目の選定理由、実施後の②参観者の意見、③主任・委員長等の意見、④担当者の意見、⑤その他、自由にご記入ください。①～④は必ずご記入ください。)

① 授業科目の選定理由

コマンド入力による実習が主となる情報処理科目の教授方法についての情報共有を行うため。

② 参観者の意見

本授業は、情報処理教室の PC を用いて UNIX コマンドの実習が分かりやすく行われている。あらかじめ教員が作成した丁寧な講義資料に基づき、学生のペースに合わせてその都度理解をしっかりと確認しつつも、テンポよく授業が進行していた。毎回、学生に各自の PC 上で講義ノートを作成させており、自分が行ったコマンド操作の履歴を残して復習等に活用できるようにしていると推察され、学習効果を上げる工夫がなされている。また、TA を配置して、うまくいかない学生が授業についていくことができなくなることがないように配慮されている。一方、教員のモニターどおりにコマンド操作をして正しい結果を得るところまでで安心している学生がいるようも思われた。項目ごとに演習問題を出して、学生が自分で考えてコマンド操作を実行できるようにしたほうが学生の理解がより深まると考えられる。

③ 主任・委員長等の意見

コマンド操作が主となる実習では往々にして一部のうまくいかない学生の対応に手間取って授業が中断されることがしばしばある。また、学生は操作をやりっぱなしになり、次の週にまた同じところで躓いてしまう、ということも起こりがちである。本授業では、丁寧な講義資料の準備、学生自身による講義ノートの作成、TA の活用、無理のない授業進行、などの工夫がなされ、このようなことが起こりにくいよう授業が運営されていた。情報処理科目にはプログラミング系の科目をはじめとしてコマンド操作が主となる授業が多いが、同種の授業での教授方法として大いに参考になるものであった。

④ 担当者の意見

本授業は、UNIX の仕組みと特性を理解し、目的に応じて UNIX コマンドを使いこなせるようになることを目指したものである。コマンド操作を通じて、OS の働きとファイルシステムについての知識を深め、コンピュータがどのように動いているのかを理解させることを意図している。実際にコマンドを実行してみる実習中心の授業であるが、やや単調になりがちなコマンド操作に集中して取り組んでもらうために、講義ノートに履歴を記録し、授業終了時に毎回提出してもらうようにしている。講義ノートは、学生自らの復習や振り返りに活用されていることに加え、教員が学生の理解度を確認する手段（進度が速すぎないか？どこでつまずきやすいか？等を履歴から確認できる）としても有効に機能している。

授業参観当日の授業は、ファイルを操作するコマンドに関する内容であった。この回までは、テキストやファイルを扱う基本的なコマンドを一通り取り上げ、コマンド操作に慣れることが中心であった。そのため、演習課題はごく一部のトピックに対してのみしか課すことができなかった。参観者のコメントにあったように、学生はテキストのコマンドをそのまま実行しているだけということになりがちなので、今後はトピックごとに演習課題を課すことを検討していきたい。ちなみに、10回目以降の授業では、画像処理等の応用的なトピックを扱うということもあり、学生自らで取り組む課題を課すようにしてみた。

## 2021 年度 教員相互の授業参観報告書

提出日

2021 年 12 月 23 日

科目・専攻・委員会名

教職課程運営委員会

主任・委員長等責任者氏名

大家まゆみ

|  |                                      |           |                                    |
|--|--------------------------------------|-----------|------------------------------------|
| 授 業 科 目  | 教育原論                                 | 授 業 担 当 者 | 河野 誠哉                              |
| 授 業 形 態  | 対面授業および Zoom による双方向型授業を併用したハイフレックス授業 |           |                                    |
| 授 業 参 観 実 施 日  | 11 月 29 日 (月) 1 時限                   | 参 観 者 数   | <u>3</u> 名<br>(内、非常勤講師 <u>0</u> 名) |
| <p>(①授業科目の選定理由、実施後の②参観者の意見、③主任・委員長等の意見、④担当者の意見、⑤その他、自由にご記入ください。①～④は必ずご記入ください。)</p> <p>① 教育原論は教職に関する科目の中でも、特に根幹を成す科目である。同科目は古代から現代に至るまでの教育思想や教育制度の成り立ちと変遷について扱うため、教育とは、そして学校とは何か、どのようにあるべきかを哲学的に振り返り、歴史的史実とともに未来を拓くための重要な科目である。担当者の河野先生は、同科目をわかりやすく学生に教授できる適任の研究者かつ教育者であるため、本学に赴任して1年目の授業を公開し、相互に参観することとした。</p> <p>② キリスト教主義大学としての本学の大学教育において、チェコのコメニウスがボヘミアの牧師として祖国解放運動に関わるうちに、学校教育の重要性を構想するようになった経緯を詳しく解説した点は、西洋では宗教から教育が生み出されてきた歴史的経緯を、学生にわかりやすく説明しており、大いに評価できる。大変有意義で興味深い授業参観となった。</p> <p>③ 授業の冒頭で小テストを実施しており、学生の理解度を確認するために河野先生が努力を惜しまない様子が伝わってきた。授業の中で、コメニウスは全ての青少年が教育を受けると、人格的でまっとうな判断ができる人間になり、国政が安定すると構想するものであり、現在の SDG 4「質の高い教育をみんなに」の源となる教育思想のもとに、学校を構想した。一般の人々が学校教育を受けるようになったのは19世紀だったことから、はるか昔から現代の教育制度を構想していた偉人がボヘミアから出たことは、当時の社会文化的背景を考慮すると大きな変革であった。また、スイスのルソーを取り上げ、現代にも通じる宗教と政治、そして社会改革の思想家の関係をよく説明されていた。ルソーは啓蒙思想家であり、理想の教育に関する大著『エミール』は、家庭教育論の形をとった社会改革論だった。そのため、出版後10日でパリ政府により焼却処分を受け、ルソーには逮捕状が出て、宗教世界からも弾圧されたにも関わらず、ヨーロッパに瞬く間に広まった。「子どもの発見」は近代教育思想上の大転換点である。子どもの人権を大人同様に尊重し、1人の人間としての権利を持てる存在としての子どものあり方を打ち出していった点は、キリスト教主義の本学が個を大事にする精神に基づいて教育を行っている点と大きく重なっている。学生たちはよく理解できた様子だった。授業終了後も学生からの質問を受け付けており、学生が授業をよく理解できるように授業時間全体を工夫して配分していることが分かった。</p> <p>④ももとは板書形式であったが、今期はハイフレックス対応のため、パワーポイントを使っての授業実施である。スクリーン上にスライド画面が映し出されているとはいえ、教室の学生に向かってではなく、PCに向かって喋らなければならないというのは、決して望ましい形ではないことを実感しているところである。また、板書方式とは違ってスライド方式だと、学生たちのノートテイクの呼吸がつかめず、するすると授業進行してしまう。こうした授業運びの対応も今後の課題である。</p> |                                      |           |                                    |

## 2021 年度 教員相互の授業参観報告書

提出日 2021 年 12 月 14 日

科目・専攻・委員会名 学芸員課程運営 委員会

主任・委員長等責任者氏名 委員長 高橋 修

|         |                                 |           |                                    |
|---------|---------------------------------|-----------|------------------------------------|
| 授 業 科 目 | 博物館経営論                          | 授 業 担 当 者 | 高橋 修                               |
| 授 業 形 態 | 対面による授業を主としつつ、一部の学生に配慮し、遠隔授業を併用 |           |                                    |
| 授業参観実施日 | 11 月 17 日 ( 水 ) 2 時限            | 参 観 者 数   | <u>3</u> 名<br>(内、非常勤講師 <u>2</u> 名) |

(①授業科目の選定理由、実施後の②参観者の意見、③主任・委員長等の意見、④担当者の意見、⑤その他、自由にご記入ください。①～④は必ずご記入ください。)

### ① 授業科目の選定理由

- 昨年度の授業参観においては実習形式の授業である「博物館実習 2」を選定したので、本年度は講義形式の授業の一つである「博物館資料保存論」を授業参観科目とした。
- 講義形式の授業は学芸員課程の必修科目の 8 割を占めることから、同形式の授業について教員相互で意見交換をすることは、学芸員課程科目全体における授業内容の点検・今後の改善にあたり、有益であると判断された。
- 今年度は昨年度に比較すると、コロナ問題が鎮静化傾向にあったため、全学的に対面形式の授業を導入することとなった。本授業も原則的に対面形式で実施しているが、一方で、配慮を要する学生に対しては遠隔形式も併用するというハイブリッド型の授業形態を導入している。
- ハイブリッド型の授業形態は初めての試みであり、コロナ問題が長引けば今後も継続導入をする必要がある。そこで、本授業について意見交換をし、その利点と改善点を検討することは、同形態の授業を実施するにあたり有益であると判断された。以上が選定理由である。

### ② 参観者の意見

#### 【当日の授業内容】

- 博物館の運営形態、とりわけ指定管理者制度に焦点を当てた内容を主題とした。
- 対面形式の実施にあたり、学生の授業理解を深める工夫
  - ・授業内容があらかじめ把握できるように、授業全体の目次が簡潔にまとめられた資料を Google Classroom (以下「グークラ」) により全員に事前配布。
  - ・指定管理者制度の具体的事例が分かるように、専門誌のカラー記事を資料として配布。
  - ・博物館の最新の運営動向が分かるように、パワーポイントをスライドに投影。
  - ・講義形式の授業は講師側からの一方向的な伝達に陥りがちであるため、パワーポイント内容にクイズ的要素を加味し、学生に考える機会を提供。
  - ・授業前にリアクションペーパーを配布し、授業内で随時、問を口頭で学生に投げかけ、学生に考える機会を提供。
  - ・学生の理解度を確認するために、所用時間 20 分程度の課題を課した。提出はグークラによ

って実施。

○対面形式の実施にあたり、コロナ対応上の工夫

- ・資料の事前配布はグーグルによって行い、教員からの直接配布による感染リスクの低減を図った。
- ・リアクションペーパーの配布にあたっては、学生の前で消毒液を塗布することで、学生の心理的安心感を高め、同様に感染リスクの低減を図った。
- ・いまだコロナ禍が続いている状況に鑑み、透明アクリルで覆われた教卓内から講義を行い、飛沫感染の防止に努めた。

○遠隔形式の実施にあたり、学生の授業理解を深める工夫

- ・授業内容全てをビデオカメラで撮影。授業終了後にビデオの動画データを変換し、Googleドライブ（以下「ドライブ」）にてオンデマンド視聴を可能とした。
- ・学生の理解度を確認するために、所用時間 20 分程度の課題を課した。

#### 【参観者から出された意見】

○対面形式と遠隔形式の併用による実習授業のノウハウについて、他の授業の実施事例を知るために参加した。

○対面と遠隔形式の併用にあたっては、ハイフレックスも一つの選択肢であった。だが、この手法は、教員のパソコン動作が煩雑であり、手間がかかる。また、機械操作のトラブルにより、授業のスムーズな進行が中断される可能性もある。こうした問題を解決する上で、授業内容を録画し、それを遠隔受講学生が視聴可能とする方法は有効である。

○一方、当該手法の問題点として、遠隔受講学生の理解度や反応等を随時、確認することが困難という問題がある。

○一般的に講義形式の授業は学生の集中力が途切れがちである。かかる問題点に対し、本授業では要所において適宜、質問の時間・クイズの時間を設け、集中力が持続できるようにしていた。

○ただし、感染症対策として、極力、学生からの発話は控えるようにしなければならず、通常時の対面授業以上の制約が課せられている。本授業にあっては、A or B の二者択一で答えられるクイズを随所に導入し、学生達の挙手によって理解度の確認が図られていた。コロナ対策として有効ではあるが、他の授業で導入するにあたっては、授業の流れや発問の仕方等を工夫する必要がある。

### ③・④担当者の意見（委員長・授業担当者が兼務）

○未曾有のコロナ禍が続く、なおかつ学生個々人にも多様な事情があるため、やむを得ないこととは理解するが、対面形式と遠隔形式の併用は問題点が多い。なお、ハイフレックスについては上記「参加者から出された意見」のとおりである。

- ・同じ授業科目で対面形式と遠隔形式の二つの授業を行っているため、教員の負担は2倍となっている。
- ・映像教材をドライブにより視聴可能とするためには、変換作業のための時間を数時間以上必要とする。パソコンの調子によっては翌日までかかる場合があり、遠隔形式を受講する学生にはかなりの時間差が生じる。あわせて当該学生に事情説明の連絡をしなければならず、その分の手間・負担がかかる。
- ・遠隔形式の学生にも理解度を確保するための課題を課しているが、対面のようなリアルタイムでの反応を確認することが出来ないという問題がある。

○コロナ禍における対面形式の問題点としては次のとおりである。

- ・通常の対面形式授業では、随時、問いかけを行い、学生からの口頭解答により、理解度を随時、確認することが出来た。しかし、コロナ対応から学生からの発語は極力、控えさせる必要があり、理解度を確保することが難しくなった。対策としてクイズ形式を導入したものの、二者択一形式では微妙なニュアンスや多面的な見方等を含めた発表能力を測ることが



困難である。

- ・感染防止のためにアクリル板に覆われた教卓から講義を行っているが、マスクとアクリルという二重の壁に遮られているため、普段以上に大声で授業をしなければ後部座席に座る学生には聞き取れないという問題がある。これは感染対策と矛盾する行為であり、このような形であれば遠隔形式の方が様々な意味において有効である。

## ⑤その他

- 現状の対面・遠隔の併用形式は問題点が多い。各授業の特性に応じて対面か遠隔の何れかのみという形式の方が授業効果は高い。

2021 年度 教員相互の授業参観報告書

提出日 2021 年 12 月 7 日

科目・専攻・委員会名 キャリア・イングリッシュ・アイランド運営 委員会

主任・委員長等責任者氏名 塩原佳世乃（委員長）

|   |                         |           |                      |
|---|-------------------------|-----------|----------------------|
| 授 業 科 目   | Total Presentation 演習 2 | 授 業 担 当 者 | Roberto Rabbini      |
| 授 業 形 態   | Zoom による同時双方向型授業        |           |                      |
| 授 業 参 観 実 施 日   | 11 月 30 日（火） 4 時限       | 参 観 者 数   | 2 名<br>(内、非常勤講師 0 名) |
| <p>(①授業科目の選定理由、実施後の②参観者の意見、③主任・委員長等の意見、④担当者の意見、⑤その他、自由にご記入ください。①～④は必ずご記入ください。)</p> <p>① 22年度より、CE 課程修了の際の表彰の基準に Final Presentation 試験の成績を使用する予定であり、それに伴い Final Presentation を準備するにあたり重要な役割を果たす本科目のルーブリックを整える予定である。今回本科目を参観することにより、プレゼンテーション方法の指導について関係者で意見交換をし、本科目の改善に役立て、ルーブリック作成のための資料にしたい。</p> <p>② ・何をするのかの指示を学生たちはすぐに理解していたので、もちろん指示が明瞭であったということですが、これまで教員が学生ときちんと向き合って関係性を築いてきた跡が垣間見えた気がしました。</p> <p>③ ・上記①のとおり明確な目的があつて本科目を参観授業として選定したが、参観（予定）者の授業スケジュール等の都合により、参観できたのが CEI 委員長（塩原）と CEI オフィス職員のみとなったことは残念ではあつた。<br/>         ・下記④担当者の意見からもわかるとおり、シラバスに基づいてよく計画されている授業であつた。ブレイクアウトルームにおいて、学生同士が積極的に英語で議論しているのが CE 課程限定授業ならではの感じた。また、使用している教科書で扱われているトピックの内容・程度が、受講学生のレベルにふさわしいと思つた。<br/>         ・今回はディスカッションを主とする授業であつたので、これがどのようにプレゼンテーションにつながるのかはわからなかつた。来年度はプレゼンテーションをやっている回を参観できるよう計画したい。</p> <p>④ According to our syllabus, the course aims to facilitate students' ability to research, present, and lead discussions on thought-provoking and often complex issues and develop critical and analytical skills. To that end, this class focused on various oral aural activities based on the theme of crime and the criminal justice system. This followed some of the exercises from unit 7 of the standard course textbook.</p> <p>A checking and discussion of the homework was the warm-up activity to get them in the mode of English, and they were asked to discuss certain behaviours critically.</p> <p>Following this, students were asked to analyse statistics from the US Dept. of Justice and share their views in pairs. Then, pre-listening vocabulary and phrases were introduced to enable them to better</p> |                         |           |                      |

execute two listening activities based on fairly high-level interviews. Finally, homework was given in the form of Reaction Questions after the listening that will be used as a springboard for discussion at the beginning of next class.

Overall, the learners applied themselves very well: motivation seemed high and participation was very good, I felt.